

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成27年3月31日
【四半期会計期間】	第38期第3四半期（自平成26年11月16日 至平成27年2月15日）
【会社名】	株式会社 銚子丸
【英訳名】	Choushimaru Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 石田 満
【本店の所在の場所】	千葉県美浜区浜田二丁目39番地
【電話番号】	043-350-1266（代表）
【事務連絡者氏名】	管理部長 大和 竜一
【最寄りの連絡場所】	千葉県美浜区浜田二丁目39番地
【電話番号】	043-350-1266（代表）
【事務連絡者氏名】	管理部長 大和 竜一
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第37期 第3四半期 累計期間	第38期 第3四半期 累計期間	第37期
会計期間	自平成25年 5月16日 至平成26年 2月15日	自平成26年 5月16日 至平成27年 2月15日	自平成25年 5月16日 至平成26年 5月15日
売上高 (百万円)	13,630	14,322	18,345
経常利益 (百万円)	801	871	1,164
四半期(当期)純利益 (百万円)	404	508	606
持分法を適用した場合の投資利益 (百万円)	-	-	-
資本金 (百万円)	315	315	315
発行済株式総数 (千株)	2,903	2,903	2,903
純資産額 (百万円)	5,149	5,781	5,351
総資産額 (百万円)	8,385	9,307	8,339
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	139.34	175.16	208.93
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
1株当たり配当額 (円)	-	-	27.00
自己資本比率 (%)	61.4	62.1	64.2

回次	第37期 第3四半期 会計期間	第38期 第3四半期 会計期間
会計期間	自平成25年 11月16日 至平成26年 2月15日	自平成26年 11月16日 至平成27年 2月15日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	56.46	81.77

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度にかかる主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社が存在しないため記載しておりません。
4. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期累計期間において当社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期累計期間において、新たに発生したリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

(1)業績の状況

当第3四半期累計期間におけるわが国の経済は、政府の経済対策や金融政策の効果もあり、輸出企業の業績および雇用情勢の改善などを背景として穏やかな回復基調となったものの、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動の長期化や、個人消費の減退とその後の回復の遅れが、予想以上の景気下振れ要因となっております。

外食産業におきましては、消費税率引き上げ後の個人消費低迷の長期化、夏場の記録的な天候不順、円安に伴う原材料価格の上昇など、厳しい状況が続いております。

このような状況において、当社は経営理念に掲げる「私達の『真心』を提供し、お客様の『感謝と喜び』を頂くことを私達の使命と致します。」に基づいた「おいしい舞台」作りのために、良質な商品の提供と店舗サービス及び清潔感向上に専念し、全社一丸となってお客様に愛される店舗づくりに邁進いたしました。

当第3四半期累計期間において、グルメ回転寿司業態以外の江戸前の「立ち寿司」事業を取り込み、事業の多角化とあわせて、江戸前寿司の「品質」と「技」により、「すし銚子丸」ブランドのさらなる向上を目的として、『江戸前すし百萬石』新小岩店（平成26年11月）と同幸町店（平成26年12月）2店舗を事業譲受しました。この結果、当第3四半期累計期間末の店舗数は86店舗となっております。

販売促進につきましては、希少価値の高い「天然インドまぐろ」のセットメニューをはじめ、銚子丸らしい商品の拡充と時節の食材によるイベントの継続的開催を実施し、お客様の来店動機高揚に努めてまいりました。

以上の結果、当第3四半期累計期間における売上高は143億22百万円（前年同期比5.1%増）、営業利益は8億44百万円（同8.5%増）、経常利益8億71百万円（同8.8%増）、四半期純利益は5億8百万円（同25.7%増）となりました。

（注）金額に消費税等は含まれておりません。

(2)財政状態の分析

資産、負債及び純資産の状況

（資産）

当第3四半期会計期間末における資産は、前事業年度末に比べ9億67百万円増加し、93億7百万円（前事業年度末比11.6%増）となりました。主な要因は、次のとおりであります。

流動資産は、前事業年度末に比べ8億37百万円増加し、62億76百万円（同15.4%増）となりました。主な内訳は、現金及び預金の増加6億85百万円であります。

固定資産は、前事業年度末に比べ1億30百万円増加し、30億31百万円（同4.5%増）となりました。これは主に、立ち寿司事業の譲受による店舗設備の増加によるものです。

（負債・純資産）

当第3四半期会計期間末における負債は、前事業年度末に比べ5億37百万円増加し、35億26百万円（前事業年度末比18.0%増）となりました。主な要因は、次のとおりであります。

流動負債は、前事業年度末に比べ5億42百万円増加し、29億10百万円（同22.9%増）となりました。主な内訳は、買掛金の増加3億64百万円であります。

固定負債は、前事業年度末に比べ4百万円減少し、6億15百万円（同0.8%減）となりました。

純資産は、前事業年度末に比べ4億30百万円増加し、57億81百万円（同8.0%増）となりました。主な内訳は、当第3四半期累計期間の四半期純利益5億8百万円及び第37期期末配当金の支払78百万円であります。

(3)事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4)研究開発活動

特に記載すべき事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	10,800,000
計	10,800,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (平成27年2月15日)	提出日現在発行数(株) (平成27年3月31日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	2,903,600	2,903,600	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数100株
計	2,903,600	2,903,600	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成26年11月16日～ 平成27年2月15日		2,903,600		315,950		236,829

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

【発行済株式】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成26年11月15日）に基づく株主名簿による記載をしております。

平成27年2月15日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式（自己株式等）	-	-	-
議決権制限株式（その他）	-	-	-
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 300	-	-
完全議決権株式（その他）	普通株式 2,902,900	29,029	-
単元未満株式	普通株式 400	-	-
発行済株式総数	2,903,600	-	-
総株主の議決権	-	29,029	-

【自己株式等】

平成27年2月15日現在

所有者の氏名または名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数（株）	他人名義所有 株式数（株）	所有株式数の 合計（株）	発行済株式総数に対 する所有株式数の割 合（％）
株式会社銚子丸	千葉県美浜区浜田 二丁目39番地	300		300	0.01
計		300		300	0.01

2【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期会計期間（平成26年11月16日から平成27年2月15日まで）及び第3四半期累計期間（平成26年5月16日から平成27年2月15日まで）に係る四半期財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

3．四半期連結財務諸表について

当社は、子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1【四半期財務諸表】

(1)【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年5月15日)	当第3四半期会計期間 (平成27年2月15日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,996,947	5,682,317
売掛金	35,830	77,282
原材料及び貯蔵品	121,911	136,084
その他	284,339	380,724
流動資産合計	5,439,027	6,276,409
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	993,404	1,069,166
その他(純額)	448,016	400,479
有形固定資産合計	1,441,420	1,469,646
無形固定資産		
投資その他の資産	44,893	154,056
その他	1,415,716	1,408,639
貸倒引当金	1,078	1,078
投資その他の資産合計	1,414,638	1,407,560
固定資産合計	2,900,952	3,031,263
資産合計	8,339,980	9,307,672
負債の部		
流動負債		
買掛金	831,843	1,196,807
短期借入金	132,000	315,000
未払金	857,932	921,354
未払法人税等	307,685	136,949
賞与引当金	103,000	180,900
株主優待引当金	31,048	26,319
その他	105,112	133,568
流動負債合計	2,368,622	2,910,899
固定負債		
資産除去債務	177,129	191,889
その他	443,079	423,544
固定負債合計	620,209	615,434
負債合計	2,988,832	3,526,333

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年5月15日)	当第3四半期会計期間 (平成27年2月15日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	315,950	315,950
資本剰余金	236,829	236,829
利益剰余金	4,799,165	5,229,313
自己株式	787	787
株主資本合計	5,351,157	5,781,306
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	9	32
評価・換算差額等合計	9	32
純資産合計	5,351,147	5,781,338
負債純資産合計	8,339,980	9,307,672

(2)【四半期損益計算書】
【第3四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 平成25年5月16日 至 平成26年2月15日)	当第3四半期累計期間 (自 平成26年5月16日 至 平成27年2月15日)
売上高	13,630,190	14,322,957
売上原価	5,642,482	5,916,741
売上総利益	7,987,707	8,406,216
販売費及び一般管理費	7,209,483	7,561,765
営業利益	778,223	844,450
営業外収益		
受取利息	3,525	3,495
協賛金収入	17,523	16,029
その他	7,000	11,641
営業外収益合計	28,048	31,165
営業外費用		
支払利息	3,746	2,815
現金過不足	1,159	1,106
その他	-	112
営業外費用合計	4,906	4,034
経常利益	801,365	871,581
特別損失		
固定資産除却損	1,419	-
減損損失	67,729	-
特別損失合計	69,149	-
税引前四半期純利益	732,216	871,581
法人税等	327,666	363,044
四半期純利益	404,549	508,537

【注記事項】

(四半期財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自 平成25年5月16日 至 平成26年2月15日)	当第3四半期累計期間 (自 平成26年5月16日 至 平成27年2月15日)
減価償却費	200,417千円	190,518千円
のれんの償却額		5,965千円

(株主資本等関係)

前第3四半期累計期間(自 平成25年5月16日 至 平成26年2月15日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	一株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年8月8日 定時株主総会	普通株式	78,389	27.00	平成25年5月15日	平成25年8月9日	利益剰余金

当第3四半期累計期間(自 平成26年5月16日 至 平成27年2月15日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	一株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年8月7日 定時株主総会	普通株式	78,388	27.00	平成26年5月15日	平成26年8月8日	利益剰余金

(持分法損益等)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

取得による企業結合

(1) 企業結合の概要

相手企業の名称及び取得した事業の内容

相手企業の名称

株式会社オール・エフ

取得した事業の内容

寿司店 2 店舗

企業結合を行った主な理由

当社は、グルメ回転寿司事業を展開し、これまで業容を拡大してまいりましたが、今後ますます他社との圧倒的な差別化を図る必要があると考えておりました。このため、グルメ回転寿司業態以外の「立ち寿司」事業を取り込み、事業の多角化と、江戸前寿司の味と技をグルメ回転寿司事業へ承継させ、さらなる質とサービスの向上を図り、かつ企業価値向上を図ることを目的とし、今回の店舗取得に至りました。

企業結合日

平成26年11月16日 江戸前すし百萬石 新小岩店

平成26年12月1日 江戸前すし百萬石 幸 町店

企業結合の法的形式

事業譲受

結合後企業の名称

株式会社銚子丸

取得企業を決定するに至った主な根拠

現金を対価として事業を譲受けたためであります。

(2) 四半期会計期間に係る四半期損益計算書に含まれる取得した事業の業績の期間

平成26年11月16日から平成27年2月15日まで

(3) 取得した事業の取得原価及びその内訳

取得の対価

現金

2億45百万円

取得に直接要した費用

アドバイザー費用等

1百万円

取得原価

2億46百万円

(4) 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

発生したのれん金額

119百万円

発生原因

今後の事業展開により期待される将来の超過収益力であります。

償却方法及び償却期間

5年間にわたる均等償却

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社は、寿司事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自平成25年5月16日 至平成26年2月15日)	当第3四半期累計期間 (自平成26年5月16日 至平成27年2月15日)
1株当たり四半期純利益金額	139円34銭	175円16銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	404,549	508,537
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	404,549	508,537
普通株式の期中平均株式数(千株)	2,903	2,903

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年3月31日

株式会社銚子丸
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 稲垣 正人 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 高橋 聡 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社銚子丸の平成26年5月16日から平成27年5月15日までの第38期事業年度の第3四半期会計期間（平成26年11月16日から平成27年2月15日まで）及び第3四半期累計期間（平成26年5月16日から平成27年2月15日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社銚子丸の平成27年2月15日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。